

きょうしつだより



令和7年度 3号

熊本市立一新幼稚園 ことばの教室

TEL (096) 322-3456

2学期が始まり、子ども達の楽しい話を聞くことができました！

9月1日に2学期の指導が始まり、約1か月が経ちました。夏休み明けには「先生聞いて！」と夏の思い出を話したり、今は運動会での取り組みの様子を話したり、のびのびと自ら話す姿が多くみられるようになりました。1学期よりも詳しく話そうとしたり、「～の後に〇〇したんだよ。」と順序を考えながら話したりと、相手の気持ちを考えながら話そうとする姿に成長を感じました。伝えたい気持ちがとても感じられた、嬉しい2学期のスタートでした。

先日研修で、吃音について学ぶ機会がありました。その中で、「周りの人たちの正しい知識と対応で、その子にとって自然な話し方を守り、育てていくことが大切であるという認識を浸透させていくことが必要である」とのお話がありました。そこで、私たちもより多くの方に吃音について知っていただきたいと思い、教室だよりに載せることにしました。

- 吃音とは、ことばの繰り返し(連発)、引き延ばし(伸発)、出にくさ(難発)等があり、なめらかに話すことが難しいことをいいます。
- 治療法はまだ確立されていませんが、急激な言語発達の過程で生じるもので、家庭での接し方、ストレス、家庭環境が原因で始まるものではありません。
- 吃音を出さないように、気を付けたり工夫したりすると、吃音が進展(悪化)します。外から見える症状が少なくなり気付かれにくくなる一方、本人の苦しさや悩みは深くなってきます。(右図参照)



一見うまく話せているようでも、頭の中で言いやすい言葉に切り替えている人もいます。その方らしいしゃべり方をするには周りの環境が大事であると言われています。では、周りの環境では何が大事なのか、少しご紹介します。

- ◇話すのに時間がかかっても、待っていてください。話を途中で遮ったり、言いたいことを先取りしたり、途中で質問したりしないようにしましょう。
- ◇「ゆっくり」「落ち着いて」「深呼吸しよう」などという、話し方のアドバイスはしないでください。効果がなく、逆にプレッシャーになります。
- ◇話し方ではなく、話の内容に耳を傾けましょう。すらすら話せた時も、話し方を褒めるのではなく、話した内容や意欲を褒めるようにしてください。

引用:全国言友会リーフレット、吃音のことがよくわかる本、信濃毎日新聞
ここに記載したことは、ほんのわずかです。吃音についての本や新聞記事を待合室に置いてありますので、ぜひ一度読んでみてください。ご不明な点がございましたら、いつでも担当までお声かけください。

子ども達の様子です

見て！見て～！頭と足がくっつくよ！

私と同じくらい大きなパズルが出来たよ！

練習している音が、こんなにたくさん言えるようになったよ！
(アイスの裏に回数を書いてあります)

初めて同じ時間の友達と一緒に遊びました。最初は二人とも恥ずかしがっていましたが、どんどん打ち解けていきました！
また遊ぼうね！

情報交換お世話になりました。今後の指導にいかしていきます。

令和8年度の通級児募集について

10月15日(木)より募集要項をホームページに掲載します。公立幼稚園内5園(碩台・一新・向山・川尻・楠)と小学校内(健軍東小学校内)で募集します。来年度の年長児でことばの教室に関心がある方がいらっしゃいましたら、お声かけください。詳しくはホームページをご覧ください。

ホームページ
QRコード

